

# マクシム・ブトケビッチの解放を！

2023年3月15日



2023年3月10日、ルハーンシクのロシア占領下のウクライナ地域のカンガルー法廷は、左派出身の終生ウクライナ人権活動家である POW マクシム ブトケビッチに嚴重警備の刑務所で13年の刑を言い渡した。

マクシム ブトケビッチは、ロシアによるウクライナへの全面的な侵攻の直後に、ウクライナ軍に志願した何千人もの平和的なウクライナ人の1人でした。

(注)ウキペチア「反軍国主義と平和主義の長い歴史にもかかわらず、2022年のロシアによるウクライナ侵攻の開始時に、マクシム ブトケビッチはウクライナ軍で戦うことを志願しました。

彼は Facebook に次のメッセージを投稿しました。

「残念ながら、難民支援、人道的、人権活動を保留にしなければなりません。その理由は写真からもお分かりいただけると思います…重要なことを弁護する準備をしなければならない時があります - 私はそれを固く信じています。そして残りは - 勝利の後」

彼は 2022年6月下旬にロシアの侵略者に捕らえられました。

有名なウクライナの反ファシストに対するこの残忍な弾圧は、ロシアの侵略者とその操り人形の本物のファシストの顔を再び明らかにします。私たちは、ウクライナ外務省やアムネスティ・インターナショナルを含む多くの国際人権団体と同様に、この裁判や同様の見世物裁判を無効であると非難します。このように、私たちはウクライナの他の市民社会団体や個人と協力して、友人のマクシム・ブトケビッチと他の政治犯の釈放を国際社会に要求する上訴/請願を行いました。

Butkevych の子供の頃の夢は、宇宙飛行士になり、国境や境界線なしで、上空から地球を見ることでした。健康問題と政治的変化が彼の邪魔をしましたが、マックスは代わりに人類そのもの、「国境や国籍ではなく、正義、連帯、慈悲によって導かれる人々」の中に「コスモス」を見つけました。

彼は、1990 年代の学生組合ダイレクト アクションの「第 1 世代」を含むさまざまな左翼および民主主義イニシアチブで、著名なアナキストおよび反ファシスト活動家として頭角を現しました。彼は 7 年生として最初の学生の抗議行動に参加し、草の根の民主化とウクライナの独立につながった出来事の 1 つである 1990 年の花崗岩の革命の間に学校で非暴力のストライキ委員会を設立し、在職中も活動を続けました。キエフ国立大学哲学部（後にサセックス大学で応用人類学も学びました）。

彼はその後、BBC ワールド サービスとウクライナのメディアのジャーナリストとして働きました。彼は、独立した、非政府の、非寡頭制のラジオ放送を作成することを目指した Hromadske Radio の共同設立者の 1 人でした。彼は、社会、労働、ジェンダー、その他の人権のためのキャンペーンをやめず、最も脆弱で抑圧された立場にある人々に連帯と支援を提供しました。

20 年以上にわたり、彼は多くの反戦、オルターグローバリゼーション、反ファシズムの抗議行動（ロシアのネオナチによって殺害されたスタニスラフ・マルケロフとアナスタシア・バブロワを追悼する毎年の行動を含む）、国境に反対する集会の組織に関与していた。侵略戦争、独裁と権威主義法、疎外された、マイノリティ、LGBTQ +、非白人、難民を支援するデモ。2006 年にセントルイスで開催された G8 サミットに対する街頭抗議活動取材していたとき。サンクトペテルブルクでジャーナリストとして働いていた彼は、ロシア警察に不法逮捕され、その後 ECtHR で勝訴しました。これは、報道の自由と集会の自由を守る上で重要なマイルストーンでした。

故ドミト・フロイスマンと共に、彼らは人権センターのソーシャル・アクションを設立しました。Butkevych は、国際人道組織の多くの地方機関にも参加しました。彼は、国連難民機関（UNHCR）の広報の地域マネージャー、公衆衛生のための同盟の顧問、国家予防メカニズムの監視者、創設者でした。ヒューマン ライツ センター ZMINA のメンバー、アムネスティ インターナショナルの理事会メンバー、DocuDays UA 国際人権ドキュメンタリー映画祭イベントのモデレーター。彼は、ウクライナで最も一貫した人権擁護者の 1 人であることが証明されています。

No Borders Project の創設者兼共同コーディネーターとして、マクシム ブトケビッチと彼の同僚は、中央アジア、ベラルーシ、ロシア、中東、アフリカ諸国からの多数の難民と亡命希望者を救出し、保護し、支援するために介入してきました。戦争地帯から逃れた人々だけでなく、国外追放の場合に抑圧や殺害に直面する人々も含まれています。2013 年から 2014 年のマイダンの抗議行動の最中とその後、マクシムと彼の仲間は国家移民局を占領し、この機関の人道的な改革を実施しました。この機関の市民諮問委員会に参加し、警察による民族プロファイリングなどの人種差別的慣行の廃止を推進しました。

彼らはまた、2014 年に内戦が勃発した後、ウクライナの IDP に手を差し伸べました。No Borders Project は、IDPs Coalition のリソース センターを設立する際の他のイニシアチブに加

わかりました。マクシムと彼の仲間のプロジェクトは、闘争のあらゆる段階で何百人もの人々を助け、多くの NGO が行動するように、家父長主義やゲートキーパーとしてではなく、連帯と相互扶助の観点から、難民を真の味方として見捨てることは決してありませんでした。

Maksym Butkevych は、人種差別、外国人排斥、極右過激主義、およびウクライナ社会におけるさまざまな形態の差別との闘いに取り組んでいるだけでなく、ヘイトスピーチや警察の暴力を根絶するために、一般市民やメディアの意識を高めるための数多くのトレーニングを提供しています。ルワンダの大虐殺から現代のクレムリンの物語、西側の右翼ポピュリストに至るまで、時空を超えて現れる差別の言葉と憎悪に満ちたプロパガンダの言説に関する彼の講義は、彼のジャーナリストの同僚に、自分の仕事でヘイトスピーチを防ぐように教えました。このように、非暴力、寛容、平等に対する彼の一貫した信念、包括的で反植地的なアプローチは、他の多くの人々に受け継がれました。

彼は人権侵害、特に国家側の人権侵害に批判的であり、ウクライナであろうと国外であろうと、それが行われた場所に関係なく、彼の組織のモットーである「誰も違法者ではない」に導かれ、彼はウクライナからの外国人亡命希望者の強制送還を阻止するために多くのことを行い、連帯委員会での活動を通じて、映画製作者のオレフ・センツォフやアンチファ活動家のオレクサンドル・コルチエンコのようなクリミアの活動家を解放するために尽力した。半島の併合後、政治裁判とロシアの刑務所で開催されました。彼の友人たちは、マクシムの想像力に富んだアナキストのアプローチを、過度に規制された活動主義の海では珍しい宝石だと説明しています。急進的で、オープンで、同時に謙虚である彼は、他の人を影に落とすことはなく、彼らから学ぶことをやめませんでした。

頑固な反戦国際主義者であり、軍自体を超えた他の生活圏の軍事化に批判的な反軍国主義者であり続けたマックスは、ロシア帝国主義の進行中の侵略に対するウクライナの抵抗に参加しなければならないと感じた。彼は本格的な侵略の日に軍の募集事務所で志願し、すぐにウクライナ軍に入隊して、「重要なものすべてを保護」しました。つまり、私たちの国の人々と私たちの自由です。

一般大衆と彼の親戚は、ロシアのプロパガンダのビデオと記事から、彼と彼の戦友が捕らえられていることを知り、オーウェル的な方法で、このヒューマニストで反ファシストの人物を「プロパガンダと国家主義者の大隊司令官」と皮肉を込めてレッテルを貼った。“。ロシアのポットは、ソーシャル メディアで彼を悪者扱いし続け、マクシム（内戦で荒廃したウクライナ東部の民間人と国内避難民に対する包摂的かつ連帯政策を断固として提唱した）を、彼の同名の右翼ジャーナリスト ボフダン ブトケビッチ（血縁関係なし）と混同し、彼は実際に軽蔑的な発言をした。ドンバスの人口についての発言。

ブトケビッチが 8 か月以上監禁された後、ロシアの調査委員会、異議を抑圧するためのプーチンの悪名高いツールの 1 つであり、ロシアが支配するウクライナの領土で認められていない司法機関は、「民間人や武力紛争で禁止された方法を使用している」と述べ、彼に独立した弁護士を提供することさえしませんでした。戦争捕虜から公正かつ定期的な裁判を受ける権利を故意に剥奪することは、すでに戦争犯罪そのものを構成しており、映像は目に見えて疲れ果て、苦しんでい

るマクシムの顔を映し出している。アムネスティ・インターナショナルが指摘したように、これらの見世物裁判は、ウクライナ人捕虜に対する無慈悲な報復行為にほかならない。

さらに、“Graty”の調査ジャーナリストは、少なくとも6月14日まではプトケビッチがシエヴィエロドネツクにすることができず、ルハーンシク地域での敵対行為に参加できなかったことを確認しました。それにもかかわらず、「調査」は、2022年6月4日、つまりマクシムと彼の部隊がドンバスにさえいなかったときに、プトケビッチがシエヴィエロドネツクの住宅ビルの入り口でグレネードランチャーから発砲したと主張した。

マクシムの事件は侵略者の無法行為のもう一つの劇的な体現であるため、マクシム・プトケビッチだけでなく、ロシアの残忍な帝国主義の侵略によって影響を受けたウクライナの他の何百万人もの人々との世界的な連帯の活動を広める時が来ました。